

上田 勉

ロシアは隣国ウクライナの大統領選挙で、ロシアが支持するかいらい候補が当選すれば、ロシアからウクライナに供給している液化天然ガスの料金を半額にし、負ければ料金を倍にして来ました。沖縄では、4年前にオール沖縄の翁長雄志（おながたけし）氏が県知事選挙に勝利したことによって、官邸は沖縄振興交付金を300億円削減しました。それにもかかわらず、ウクライナ国民も沖縄県民も、共にかいらい候補と札束よりも、アイデンティティと平和を選択したのです。

沖縄知事選挙 玉城候補（オール沖縄）、佐喜真候補（自民・創価学会・維新）に勝つ

9月30日に投開票された沖縄県知事選挙で、故翁長雄志知事の遺志を継ぎ、辺野古新基地反対を掲げたオール沖縄の玉城デニー候補が、国家権力（自民・創価学会・財界等）が総力を挙げて応援した佐喜真淳候補に8万147票の差を付けて勝利しました。佐喜真候補が辺野古新基地について一切触れないで争点隠しに終始したため、選挙戦は、米軍基地建設反対と平和な沖縄を掲げるオール沖縄VS米軍基地建設容認と自分達の利益のみをめざす国家権力勢力の戦いになりました。

選挙戦では、国家権力の側では、多くの方が沖縄入りをしました。菅官房長官は3回沖縄入りしました（安倍首相は外憂（外遊）で官邸は留守に、危機管理よりも米軍基地建設が大事なのだ）。小池都知事は2日間沖縄入りしました（都民ファーストは沖縄にとってはワーストのこと、築地は守らないが米軍基地は守るのだ）。松井維新の会代表は台風21号で大阪が水害に見舞われた翌日に沖縄入りしました（災害救助はいつでもよい、世界中の米兵がカジノに来てもらいたいのだ）。創価学会の原田会長は沖縄入りして陣頭指揮をしました。（現世利益とは、米軍基地を建設して人類を殺戮することなのだ）。

国家権力側は、「勝利の方程式」に基づいて、総動員体制で臨みました。自民党は大多数の国会議員が何度も沖縄入りをして、企業・団体を徹底的に締め付けました。創価学会は、数千人規模の学会員が全国動員で沖縄入りをしました。沖縄の公明党は辺野古米軍基地の移設反対ですが、原田会長の「相手（玉城）候補に投票すれば地獄に落ちるの一声でダンマリ（？）」。

出口調査の結果では、期日前投票でも、無党派層の7割以上が玉城候補に投票しました。投票当日も、無党派層の7割、自民支持層の2割、公明支持層の3割が玉城候補に投票しました。今回の選挙では、沖縄のことを真剣に考える創価学会員が、三色旗を掲げて玉城候補の集会に参加しました。

【官邸と創価学会＝勝利の方程式】

*争点隠し（基地問題や原発）*国家権力総動員（官邸—企業団体の締め付け、創価学会—全国動員）*かいらい候補が当選すれば補助金増額・負ければ削減*利益誘導（官邸—口利き・補助金、創価学会—現世利益）*考えさせない・期日前投票に連れて行く

【万歳をする玉城候補とオール沖縄の人たち（「沖縄タイムス」10月1日付け）】



【“カチャーシー”を踊るオール沖縄の人たち（「沖縄タイムス」10月1日月付け）
かいらい候補が当選していれば“星条旗よ永遠なれ”を合唱したかも】

